

水稻生育情報 (No.4)

平成 27 年 7 月 13 日
県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)

【生育概況】

7月に入り、気温は平年並みよりも2.4℃低く、降水量は平年よりも多くなりました。管内の生育情報を下表に示します。草丈は平年並み～低く、茎数は平年並み～やや少ない、葉色は平年並み～濃くなっています。7月10日時点での幼穂長の生育から、出穂は平年並みかやや遅くなることが予測されます。

表1 水稻定点調査結果(7月10日時点)

調査地点	田植え日 月/日	植付株数 株/坪	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色		幼穂長 mm
					葉色版	SPAD値	
筑西市	5月7日	57	79.6	586	4.1	33.2	4.2
一本松	(5月2日)	(65)	(80.9)	(551)	(3.6)	(29.5)	(12.4)
下妻市	5月2日	42	76.4	459	4.2	29.8	17.7
加養	(5月2日)	(43)	(81.4)	(433)	(3.6)	(30.9)	(24.9)
桜川市	5月17日	61	64.5	447	4.1	34.6	1.2
元岩瀬	(5月14日)	(59)	(73.3)	(548)	(4.1)	(35.7)	(1.1)
桜川市	5月7日	44	75.7	384	4.5	33.6	2.0
真壁町飯塚	(5月7日)	(58)	(79.9)	(446)	(3.9)	(32.6)	(15.1)

()内は平成22～26年(5カ年平均値) ※桜川市真壁町飯塚は過去2カ年の平均値

【今後の主な栽培管理のポイント】

・高温期の水管理～間断かん水で根の活力維持～

中干し後の深水や常時湛水は根腐れなどの原因となります。間断かん水を行うことで、根腐れ防止や根の活力を維持することができます。

右図を参考に間断かん水を行って下さい。入水の目安は、砂質の土壌は田面に触れると湿り気を感じる程度で、粘質の土壌は水が付着する程度です。

また、出穂 30 日後まで間断かん水を行い、早期落水は行わないで下さい。早期落水は胴割れ米や登熟不良を助長し、品質を落とす要因となります。

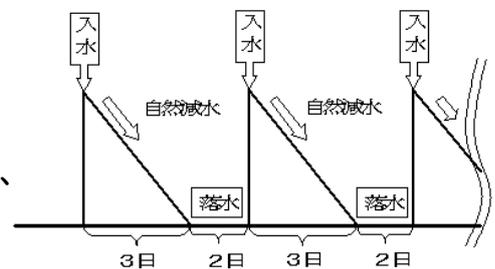


図1 間断かん水の一例

・斑点米カメムシ類の防除

畦畔などに繁茂しているイネ科雑草はカメムシ類の生育場所となっています。被害を極力少なくするためにカメムシ類の生育密度を下げることが重要です。そこで、除草を出穂 10 日前までに行うようにしましょう。出穂後の草刈りはカメムシ類を水田内に追い込むことになり、被害を助長するので注意しましょう。

航空防除を行っていない地域では成虫の飛来期である出穂期～穂揃い期に薬剤による防除を行きましょう。発生が多い場合や例年被害の多い場所では幼虫の発生初期である出穂 20 日後に 2 回目の防除を行きましょう。



図3 カメムシによる被害(斑点米)